

令和7年9月発行

環境学習推進センター情報誌

第57号

Contents

やまぐち

Well-being

eco サポート

発行元 公益財団法人山口県ひとづくり財団県民学習部

- ◇ 環境学習講座を開催しました
- ◇ 山口県の海洋ごみについて
- ◇ これって気候変動？みんなで調査！
ガイドブック2024 ～やまぐちの樹木編～
- ◇ 今後の講座・イベント実施予定
- ◇ 環境学習推進センター新刊図書のご紹介

健全で恵み豊かな環境の保全と創造に向けて 環境学習講座を開催しました

令和7年5月24日（土）

山口県を日本一キレイな地方に！

【受講者：21人】

「山口県を日本一キレイな地方に！」をモットーに、県内の道路を巡りながら各地をキレイにする「G0(ジーゼロ)大作戦」を実践し、TYSテレビ山口の情報番組「mix」で紹介された、山口県YouTuber＆ローカルタレントのメガネ山口氏を講師にお招きし、ポイ捨てごみの実情のお話をいただきました。

2021年4月、岩国市からスタートした「G0大作戦」は、当初、1回限りの収録予定だったそうですが、当日に回収したごみの多さにびっくりし、それなら県内の道路を巡ってみようかと急遽企画を変更したそうです。

終盤にかかった阿武町までの4年間で95回道路を巡り、約2tのごみを回収し、中でも一番多かったごみが、「タバコの吸い殻」、次いで「ペットボトルと空き缶」であり、ペットボトルの約半分は飲み残しだったそうです。また、意外にも第3位は「錠剤などの薬の包装ごみ」であり、「めんどくさいから捨てちゃえの気持ちがいけない」ことを強調されました。

また、講演後の約1時間を質疑応答の時間にあてられ、「G0大作戦」での発見やごみ拾い活動で注意すべき点など、体験談を交えながら受講者の皆さんと交流をしていただきました。

最後に、メガネ山口氏から「これまで、ペットボトルを約1万本回収した。10人の人が毎日1つごみを拾うと、年間で3,650個のごみがなくなる。環境美化には、ごみを拾うという意識をもっていただくことが大切」と呼びかけられ、受講者の実践へのきっかけづくりとなる、充実した学習会でした。

令和7年7月26日（土）

ツキノワグマの生態と私たちの暮らし

【受講者：67人】

近年、人の日常生活圏でも頻繁に目撃されるツキノワグマ（以下「クマ」という。）について、環境の視点からクマを取り巻く状況について知り、私たちの暮らしとの関わりを考えていただくための講座を、山口県自然保護課主幹の山田隆信氏、山口県立山口博物館学芸員の大森鑑能氏を講師にお招きし、開催しました。

山田氏からは、絶滅が危惧される西中国地域のクマは、平成6年から（現在も）「狩猟禁止鳥獣」として「保護」されている。令和2年度の生息状況調査では、その生息数の回復や生息域の拡大が判明するとともに、人家周辺への出没などが増えたことから、クマとのすみ分けなどを重点にした「管理」へと変わっている。山口県内でも恒常的な生息範囲が拡大し、18市町で目撃情報がある。一方、クマは人に気づくのが早く、人を避ける行動をとる臆病な動物であることなど、クマに関わる様々な情報を丁寧に教えていただきました。

大森氏からは、「クマを正しく知って、正しく恐れる」として、クマの行動圏は10～65km²と広く、目撃情報には重複カウントやクマらしき動物の情報もあるためクマと遭遇する確率は非常に低い。また、クマは人と関わりたくないため、鈴の音や大声で話すことなどで、早くクマに気づかせ、クマとの距離を保っていれば逃走していく。しかし、バッタリ遭遇や子連れの母熊には要注意である。更に、クマの出没を助長するのは、人里の放任果樹による誘因や里山などの緩衝地帯の縮小など、人間の活動量が減少していることも要因であり、「クマ問題は人間側での問題である」ことなどをわかりやすく解説されました。

ニュースなどでは、わからない情報が満載の講座であり、受講者からは、「クマの出没は、私たちの暮らしの変化が影響していることがわかった。共生について考えていくことへのよいきっかけとなった」などの感想が多く、充実した講座となりました。



山口県の海洋ごみ（海洋プラスチックごみ）について

山口県の海洋ごみ

山口県は三方が海に開け、1,504kmもの長い海岸線（全国6番目）を有しており、処理しきれないほど大量の海洋ごみが漂流・漂着しています。

◆海岸漂着ごみ

山口県が令和6年12月に県内4地点で実施した海岸漂着物実態調査結果（海岸線50m当たりの個数）をみると、日本海側では国内だけではなく海外からのごみも多く、瀬戸内海側ではペットボトルなどの家庭ごみや漁業由来のごみが多くみられます。

また、いずれの地点もプラスチックが最も多くなっています。

◆河川ごみ

海洋プラごみの約8割が、陸域でポイ捨てされたごみなどが、河川を通じて流出したものとわれています。山口県が令和6年7月～12月に九田川（山口市）で実施した河川ごみ実態調査結果（河川から海域に流出するごみの実態）をみると、ペットボトル、ポリ袋、食品容器などの生活系プラスチックごみが、降雨に伴い流下していることが確認されています。

環境への影響

◆自然、景観や安全な暮らし

豊かな自然や良好な景観が損なわれることはもとより、日本海沿岸に漂着する廃ポリタンクには有害な液体が入っていることもあり、安全な暮らしへの影響が懸念されます。

◆マイクロプラスチック

ペットボトルやレジ袋などのプラスチックごみは、紫外線や波の力で細くなり、大きさが5mm以下の「マイクロプラスチック」となります。海を漂う間に、化学物質を吸着し、魚などに誤食されやすく、生態系への影響が懸念されます。

◆生き物

死んだ海鳥や魚の胃の中から、餌と間違えて食べたプラスチックがたくさん見つかっています。また、プラスチックの網が身体に巻きついてしまい、動けなくなってしまう動物もいます。

海洋ごみを減らすために私たちにできること

海岸に漂着するごみの多くは、私たちの身近な取組の積み重ねで減らすことができます。自分たちで何ができるのかを考えて、できるところから実践してみましょう。

ポイ捨てはしない！

- 外出中に出たごみは家に持ち帰りましょう。
- ごみは、地域のルールを守って分別しましょう。



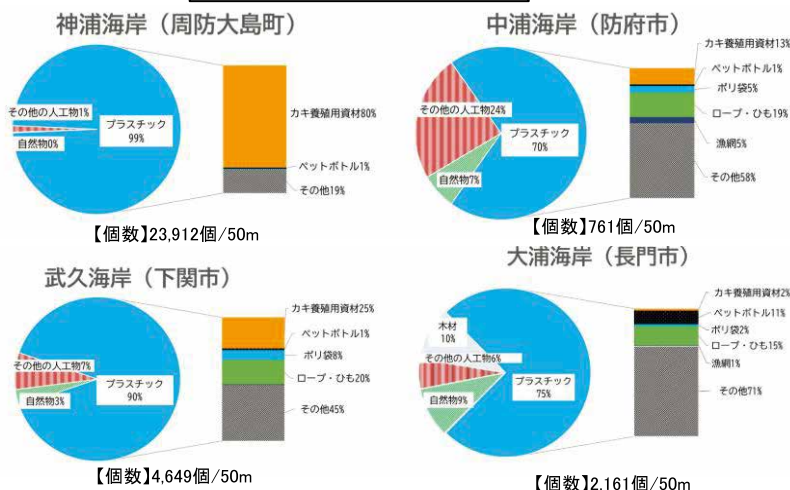
ごみを減らそう！

- マイバッグを持参してレジ袋を減らしましょう。
- マイボトルなどを持参して使い捨て容器を減らしましょう。
- プラスチック以外の容器包装があれば、そちらを選びましょう。

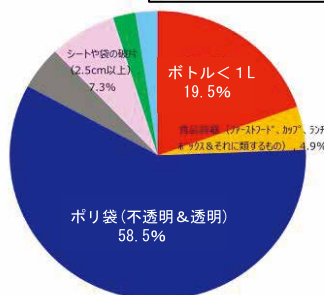


【出典：山口県廃棄物・リサイクル対策課資料をもとに作成】

海岸漂着物実態調査結果



河川ごみ実態調査結果



河川流下ごみの組成割合 (九田川)



採取した河川流下ごみ



海岸に漂着したごみ



日本海沿岸に漂着する廃ポリタンク



マイクロプラスチック (県環境保健センター提供)



餌とまちがって食べてしまう生き物

海岸や河川の清掃活動に参加しよう！

○県内の色々な場所で行われている清掃活動に積極的に参加しましょう。



日韓海峡海岸漂着ごみ一斉清掃

【海洋ごみに関するお問い合わせ先】

山口県廃棄物・リサイクル対策課 ☎083-933-2992

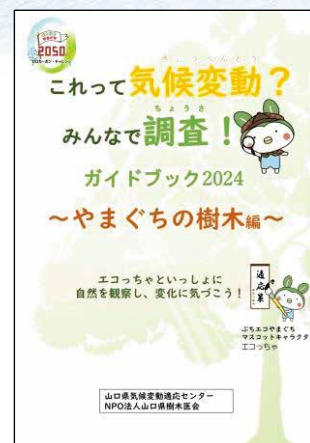
これって気候変動？みんなで調査！ ガイドブック2024 ～やまぐちの樹木編～

樹木は山林を構成し、四季折々の姿で私たちに季節の訪れや移り変わりを知らせるだけでなく、生物多様性の保全など、様々な恩恵をもたらしています。しかし、最近、桜の開花や紅葉の時期が昔と変わったという声や、樹木が弱り昆虫の食害を受けやすくなってきているのではないかと声をよく耳にします。これらは地球温暖化による降水量の変化や異常気象といった、気候変動が影響しているといわれています。

これらを背景に、山口県気候変動適応センターとNPO法人山口県樹木医会では、気候変動と樹木の関係について、ガイドブックを作成されました。



ポイント① 4つのモデル地域の観察ポイントを詳しく解説



モデル1

病害虫や外来生物の被害からみた地球温暖化による影響 【パークロード周辺（山口市）】

異常気象による森林被害により、弱った木を利用する病害虫や特定外来生物（ツヤハダゴマダラカミキリ）の増加のおそれについての解説

樹木医
杉本 博之



すり鉢状の産卵痕
(7～10mm)



枝上の成体

モデル2

温帯と寒帯の植物が共存する樹木・植物の特徴

【笠山（萩市）】

風穴などの特殊な環境で生息する樹木や寒地性植物などを解説



コウライタチバナ



カタホソイノデ

樹木医
草野 隆司



モデル3

高山の樹木への気候変動の影響など

【長野山（周南市）】

高山域の自生植物や樹木の生育限界、紅葉など変化について解説



ブナ林

樹木医
藤原 俊廣



モデル4

天然記念物のツルマンリョウとハマセンダンの分布域

【竜王山（山陽小野田市）、熊野神社（宇部市）】

暖地性植物である希少な樹木の分布などについて解説



ツルマンリョウ ハマセンダン



樹木医
草野 隆司



ポイント② 身近な樹木を季節・地域別に解説

県内の地域特有の樹木について季節別に紹介しています。ぜひ身近な樹木を観察してみましょう！

春



ハウライザクラ

夏一秋



サルスベリ

冬



ヤブツバキ

樹木の種類や特徴を知り、継続的に観察することは、自然をより身近に感じるとともに、気候変動に伴う変化に関する大発見につながるかもしれません。

皆さんも、是非、ガイドブックを観察会や身近な樹木の変化の気づきに活用してみてください。

【お問い合わせ先】 山口県気候変動適応センター
☎083-924-3670（山口県環境保健センター内）

【ガイドブックの詳細は、こちら】
https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/sos_hiki/246/122114.html



ポイント③ Webアプリであなたの気づきを共有

「これって気候変動？みんなで調査！」に投稿し、あなたの気づきを共有しましょう！



気づいて 撮って 投稿！



今後の講座・イベント実施予定

※詳細はチラシやホームページなどでお知らせします

環境学習講座 「気候変動の影響が身近な樹木に忍び寄る」

「これって気候変動？みんなで調査！ ガイドブック2024」に掲載された、萩市笠山（モデル2の地域）で、環境学習会を開催します。笠山には、ヤブツバキの群生林やコウライタチバナの自生、温帯の植物と寒帯の植物が共存するなど、風穴がもつ特殊な環境下で貴重な植物が生息しています。

驚きの植物相の観察や地球温暖化が引き起こす植生の変化などについて一緒に考えてみませんか！

開催日 11月1日（土） 場所 萩市笠山周辺
講師 NPO法人山口県樹木医会 草野 隆司 中村裕三
山口県気候変動適応センター 元永 直耕



やまぐち生物多様性

こどものためのワークショップ博覧会

ワークショップコレクション in やまぐち2025

日時 11月8日（土）・9日（日） 10:00～15:00
場所 YMfg維新セミナーパーク

☆つくる、学ぶ、体験する、2日間で約50コンテンツが出演！
☆クラフト工作や実験、プログラミング体験などが大集合！
☆みんなの「わくわく！」「ドキドキ！」「おもしろい！」
という気持ちを応援します！

主催：ワークショップコレクションinやまぐち実行委員会
（山口県新たな時代の人づくり推進ネットワーク）



環境学習推進センター新刊図書のご紹介

図説 河川災害と復興 自然環境の再生と持続社会

まるごとわかる！地球の科学大図鑑

さようなら プラスチック・ストロー

海面上昇のサバイバル1

海面上昇のサバイバル2

水害のサバイバル

巨大地震のサバイバル

超絵解本 巨大地震

超絵解本 絵と図でよくわかる地球大全

宇宙先生図鑑

クマはなぜ人里に出てきたのか

開講！木彫り熊概論 歴史と文化を旅する

トイレからはじめる防災ハンドブック

僕には鳥の言葉がわかる

セミナーパーク管理棟1階に環境図書コーナーがあります。
みなさん自由に閲覧可能で、一部図書を除いて貸出も行っています。ぜひお越しください。



土・日曜日、
国民の祝日、
年末年始
(12/29～
1/3)を除く
平日の9:00
～17:00に
県民学習部
窓口にて貸
出を行って
おります。
ぜひご利用
ください！

公益財団法人山口県ひとづくり財団
県民学習部
環境学習推進センター



地域ESD活動推進拠点

TEL 754-0893

山口市秋穂二島1062(YMfg維新セミナーパーク内)

TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720

E-Mail kangaku@hito21.jp

<https://yamaguchi-learning.com/>

環境学習のひろば

検索